

# 日向国一之宮 都農神社 年表

2017

西暦	平成29年起算	和暦	御代	天皇	時代	代	將軍	藩主	著名	社司・宮司	記載物	事項
				神日本磐余彦命	縄文時代						口伝	饒速日命、天孫降臨に先立ち、天の岩船に乗りて尾鈴山に天下る。矢研ぎの滝にて矢じりを研ぐ。天の岩船は、矢研ぎの滝上流に現存する。
前666年	2,683年前	神武天皇年間	1代	神武天皇	縄文時代 初期						社伝	ご即位6年前の神日本磐余彦命(神武天皇)がご東遷の砌、大己貴命を都農に鎮祭される。尾鈴山に登り矢研ぎの滝にて矢じりを研ぐ。また、ご東遷の途上、征矢原地区に宿をとり、そのお礼に銀杏の木を差立てたと伝わる。現在も上征矢原地区の神社に銀杏の木が伝わる。また、同地区で軍勢に弓矢を競わせたと言われ、同地区からは多くの矢じりが出土したとも伝わる。その所以から征矢原との地名が残る。
84年	1,933年前	景行天皇年間 13年	12代	景行天皇	弥生時代 中期						日本書紀	景行天皇の御子 豊国別皇子 初代日向国造に任ぜられる 豊国別皇子の子は国富彦 またその子は老男、またその子は牛諸井(諸県君を賜る)また、牛諸井の娘である髪長姫は第16代仁徳天皇の后となる。 髪長姫が嫁ぐ際、鹿の角を付けた部族が護衛して都入りしたとされる。
88年	1,929年前	景行天皇年間 17年	同上	同上	同上						日本書紀	景行天皇が子湯泉 丹裳小野に遊興された折り、「この国は真直に日の出る方に向かっている」。それでこの国を日向と呼ぶようになったという。
201年	1,816年前	神功皇后元年10月3日		神功皇后	弥生時代 後期						社伝 日本書紀 神功皇后 巻第九	神功皇后三韓遠征の砌、御船の先鋒として祭神を招請される 既にして神、誨へたまふこと有りて曰はく、和魂は玉身に服いて寿命を守り、荒魂は先鋒と為りて師船を導かむと
592年	1,425年前	推古天皇年間	33代	推古天皇(女帝)	古墳時代 後期				泰 河勝		社伝	古神面1 推古天皇の御宇泰川勝奉勅諸国の大社に奉獻せし其の一と言伝わる
701年	1,316年前	大宝元年	42代	文武天皇	飛鳥時代 後期							日向と国号が決まる この頃、日向16駅が定められたものと思われる。 因みに、日向16駅の内都農町福原尾地区の「去飛(こひ)の駅」は都農の字を読み誤ったものとされ、唯一駅の井戸が現存する。
713年	1,304年前	和銅6年	43代	元明天皇(女帝)	飛鳥時代 後期						古風土記逸文 巻之下	吐濃峰 韃馬ノ峯 頭黒 日向國古庚郡、常ニハ兒湯郡トカクニ、吐濃ノ峯ト云フ峯アリ。神ヲハス、吐乃大明神ト申スナル。昔シ神功皇后新羅ヲウチ給シ時、此ノ神ヲ請シ給テ、御船ニノセ給テ、船ノ舳ヲ護ラシメ給ケルニ、新羅ヲウチトリテ帰り給テ後、韃馬ノ峯ト申ス所ニヲハシテ、弓射給ケル時、土ノ中ヨリ黒キ物ノ頭サン出ケルヲ、弓ノハズニテ掘出シ給ケレバ、男一人女一人ソ有ケル。其ヲ神人トシテ召仕ヒケリ、其ノ子孫今ニ残レリ。是ヲ頭黒ト云フ。始テホリ出サルル時、頭黒サン出タリケル故ニヤ、子孫ハヒロゴリケルカ。疫病ニ死シ失テ、二人ニナリタリケリ。其ノ事ヲカノ國ニ記ニ云ヘルニハ、日々ニ死ニツキテ僅ニ残ル男女両口ト云ヘリ。是 國守神人ヲカリツカヒテ國役シタガワシムル故ニ、明神イカリヲナシ給テ、アシキ病起リテ死ニケル也。是ヲ思ヘバ、男女ヲモトハ云フベキニコソト覚ルナリ。吐濃大明神瘡瘡ヲマジナフニ、必ズイヤシ給トカヤ、カノ國ノ人ハ明神ノ御方ニ向テ、頌文シテ云。五常以汝為高、今者此物高於汝、若有懷憤、宜令平却ト唱ヘテ、杵ト云フモノヲシテ、朝ゴトニ三度アツルコト三日スレバ、瘡瘡イコト云ヘリ。
717年	1,300年前	養老元年頃	44代	元正天皇	奈良時代 初期						高鍋神楽口伝	高鍋神楽 奈良時代に宮中に8回も招かれ、御前演奏を行い過分の褒美を賜ると伝わる 続日本紀に隼人が歌舞を奏すとの記述が8回見えるが 高鍋神楽かは不明
761年	1,256年前	天平宝字5年	48代	称徳天皇	奈良時代 後期							国司 安倍 黒麻呂
809年	1,208年前	大同年間	52代	嵯峨天皇	平安時代 初期							都農社 諸県郡 祭神 大己貴命 日向一ノ宮是也 何ノ時代ニ一ノ宮ト祭ル事ヲ知ラズ
837年	1,180年前	承和4年8月壬辰朔日	54代	仁明天皇	平安時代 初期						続日本後記 巻第六	日向國子湯郡都農神 預官社
843年	1,174年前	承和10年9月甲辰	54代	仁明天皇	平安時代 初期						続日本後記 巻第十三	日向國無位都農神 奉授 從五位下
858年	1,159年前	天安2年10月22日巳酉	56代	清和天皇	平安時代 初期						三代実録 巻第一	授 日向國從五位上都農神 從四位上
892年	1,125年前	寛平4年	59代	宇多天皇	平安時代 初期				菅原 道真		類聚国史 九十二	安康天皇三年而申春令品鳥忌寸菟日向國兒湯郡都農神山得白鳥有翼列卒吐血死亡者以万数之終八月九日天皇有眉輪王之被崩  訳) 安康天皇 即位後三年に、品鳥忌寸に命じて日向国都農神山(尾鈴山)に狩をさせ、翼の有る白鳥を得た。その場にいた従者たちは血を吐いて死亡するものが、万を数えるほどであった。そのことがあって、ついに、その年の8月9日に安康天皇は眉輪王によって殺されることになった
927年	1,090年前	延長5年	60代	醍醐天皇	平安時代 初期						延喜式神名帳 卷十神名	日向國 兒湯郡二座 並小 都農神社
					平安時代 末期							国司は赴任せず選任であった。その為、当地の在国司職がその代役を務めた。 当時の在国司職は、日下部氏が代々務めた。
1,200年	817年前				平安時代 末期							縣土持氏が日下部氏との姻戚関係を結び、在国司職やその他日下部氏正統の一切を譲与され、日下部氏の権益の全てを獲得した
1,274年	743年前	文永11年	91代	後宇多天皇	鎌倉時代 中期	7代	源 惟康				塵袋	何ロノ事 僧ノ数ヲ何口ト云フハ、僧ニ限ル詞カ。凡ソノ人数ニモ云フ。ソノ常ニハ僧ニ限ル、僧ヲバ齋ヲトノヘテ供養スベキイワレナレバ、受食ニツキ其ノ本所ヲ表スル故ニ口ト云フカ。鹿ヲバ何カシラト云フ、牛ヲバ何頭ト云ヒ、鳥ヲバ何羽ト云フガゴトシ。凡ソ人数ヲ何口ト云ヘルコトモ。跡ナキニ非ス。(以下、古風土記逸文巻之下に同じ)
1,335年	682年前	建武2年	北朝2年	光厳天皇	建武の新政時代		足利 尊氏	日向伊東氏 初代 伊東 祐持				伊東祐持、足利尊氏の命を受けて、日向国都於郡に下向する
1,392年	625年前	明德3年	100代	後小松天皇	南北朝時代 後期	3代	足利 義満					瀧神社社殿再建

1,549年	468年前	天文18年	105代	後奈良天皇	室町時代 後期	13代	足利 義輝	日向伊東氏11代 伊東 義祐			日向伊東氏11代当主 佐土原城主 伊東義祐 宮殿を改造	
1,578年	439年前	天正6年	106代	正親町天皇	戦国時代 中期	15代	足利 義昭		豊臣 秀吉 大友 宗麟	金丸筑後守通清 天正8年生 元和5年没 81歳	社伝 金丸氏旧記	大友氏鳥津氏の争乱の折、豊後の大友宗麟数多の社を焼き払い、縁起書、古記録、ご宝物など悉く焼失する。ご神体と僅かな宝物を神官 金丸筑後守通清等が奉持し尾鈴山中宇角崎瀧と言う所に逃げ延びて兵火の難を遁れる。その後、元の場所にご神体はお祀りされるが、僅かの小社となる。
1,600年	417年前	慶長5年	107代	後陽成天皇	安土桃山時代 後期			高鍋藩 初代 秋月 種長				徳川家康より関ヶ原の合戦での功績を認められ所領を安堵され、初代高鍋藩主となる。
1,617年	400年前	元和3年	108代	後水尾天皇	江戸時代 初期	2代	徳川 秀忠	第2代 秋月 種春		同上	社伝	種春公宮殿改造
1,675年	342年前	延寶3年9月13日	112代	霊元天皇	同上	4代	徳川 家綱	第3代 秋月 種信	橘 三喜	金丸主水正實次 天正11年生 名暦元年没 73歳	一ノ宮巡詣記	延宝3年9月13日申刻 津野村に至り大明神に詣でぬるに豊後国主大友宗麟薩摩を攻めし時、あまたの社を焼き払い、縁起、古記、御宝物など悉くうせぬ。その後取立てる人もなしとて、僅かの小社となり、御名をさへ知らず只明神とのみいへり、されども年老いたる宮守を尋ね出して、古きことども語らせ、棟札などを見て、日向の一宮とは知りぬ。是によりて豊葦原一宮記を書いて宮守のもとへ遣わし侍りぬ。津野村の町はずれに二の鳥居の後あり、社より一四五町ほど海辺によりて三の鳥居の塚あり、その所を鳥居原と云う。それより東の方に都農松原と云う名所も今は絶えたり。山続き西の方に御尾山と云う所に腰掛石とて都農明神腰を掛けられたりと云う石あり。
			同上	同上	同上	同上	同上	同上		金丸筑後守實元 慶長14年生 天和2年没 74歳 後に越後と改める		
1,686年	331年前	貞享3年丙寅5月	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上		貞享寺社帳 一都農大明神 一 大己貴尊神跡鏡面壹 一 御殿一間四方大板葺 拜殿二間に三間萱葺 中略 一 元禄5年壬申種政公ご再興の事 一 御殿向中すみ5尺3寸とち葺三方欄干在渡殿8尺に2間瓦葺御供屋8尺に2間瓦葺 小社4つ大明神の一に在 一 小鳥居 大鳥井 新道102間横幅8尺両脇芝土手間の外 右の通相調同年極月遷宮日光院其の外寶持院阿遮院金剛院寶成院都而僧数15人も相動 以下略
1,687年	330年前	貞享4年	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	貞享寺社帳	都農神社別当大泉寺の記録があり当住迄8代とある
1,690年	327年前	元禄3年9月19日	113代	東山天皇	同上	5代	徳川 綱吉	第4代 秋月 種政		金丸筑後守通勝 正保2年生 享保4年没 75歳 後に主水と改める		山陰百姓一揆が起こる 郡代代官の有馬清純の悪政に抗して山陰坪屋300軒（男864人 女558人 総勢1422人）が大挙して領外に逃散した。この1大事件は江戸幕府に解決を煩わらせて争うこと10ヶ月、要求貫徹に成功したが、磔獄門、打首、死罪、遠島等21名の尊い犠牲者を出し、領主もまた悪政の罪に問われて無城の地、越後(新潟県)の糸魚川に移されるなど、我が国農民史上特筆されるべき百姓一揆となった。
1,691年	326年前	元禄4年辛未8月5日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農ご参詣お供家老内田新之丞
1,691年	326年前	元禄4年辛未9月5日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農社ご参詣お供家老内田新之丞
1,692年	325年前	元禄5年壬申4月3日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都野大明神ご再興有之
1,692年	325年前	元禄5年壬申11月21日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	藩主種政公 社殿再興 都農大明神再興に付遷宮ご代参大坪加衛門 並びに筑後守通勝の屋敷用の木材、米3俵、麥4俵を与える
1,693年	324年前	元禄6年癸酉5月29日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農ご社参お供隈江五郎左衛門八田藤兵衛御帰り後役人中登城
1,693年	324年前	元禄6年癸酉12月26日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農代筑後へ御供米5俵づつお付に成此間町に居候所御宮西脇屋敷被下之候
1,694年	323年前	元禄7年甲戌12月13日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録2	都農大明神社司筑後へ屋敷1反1畝12歩引渡
1,695年	322年前	元禄8年乙亥9月11日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農大明神へご参詣お供小田藤兵衛
1,696年	321年前	元禄9年丙子3月5日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農ご参詣
1,697年	320年前	元禄10年丁丑6月6日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録3	都農大明神社司筑後惣領子勤之助事永友内膳に付神道稽古候様高鍋に在之内は一人賄被下
1,700年	317年前	元禄13年庚辰7月8日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録3	都農社に而御雨乞お初穂銀1枚、米2俵 10日夜大雨万民喜悦ご代参有之
1,701年	316年前	元禄14年辛巳5月14日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録4	先日比木社初詣所に而雨乞都農社に而2夜3日の所大雨15日も大雨田植付諸人喜
1,701年	316年前	元禄14年辛巳6月7日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	津農へご参詣
1,701年	316年前	元禄14年辛巳9月22日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農ご社参
1,701年	316年前	元禄14年辛巳9月28日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	都農大明神へ神領地方20石ご寄付
1,703年	314年前	元禄16年癸未9月18日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	本藩実録5	種政公都農ご参詣
1,706年	311年前	宝永3年丙戌7月18日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録5	殿様ご持病平癒に付都農へご誓願ご代参
1,709年	308年前	宝永6年乙丑9月12日	114代	中御門天皇	江戸時代 中期	6代	徳川 家宣	同上		同上	本藩実録5	都農社へご参詣
1,710年	307年前	宝永7年庚寅8月3日	同上	同上	同上	同上	同上	第5代 秋月 種弘		同上	拾遺本藩実録5	上使お通りに付火難口舌無之様都農社に而御被 中略 執行有之銀一枚上る
1,713年	304年前	正徳3年癸巳8月15日	同上	同上	同上	7代	徳川 家綱	同上		金丸筑後主通寛 寛文12年4月19日生 寛保3年5月16日没 71歳	拾遺本藩実録6	ご城下痢病流行に付都農社比木社に而祈禱御札両殿様へ差上 ご城下諸小路へ1枚づつ被下
1,714年	303年前	正徳4年甲午6月26日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録6	早に付都農社に而雨乞有之
1,715年	302年前	正徳5年乙未11月16日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録6	都農大明神御宮地之内権現堂在之破損作替在之に付大泉寺之内竹山之内一作替
1,724年	293年前	享保9年甲辰閏4月9日	同上	同上	同上	8代	徳川 吉宗	同上		同上	拾遺本藩実録7	都農社比木社日光院に而御雨乞在之銀1枚づつ御雨乞料
1,724年	293年前	享保12年丁未8月15日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録7	都農社鳥居ご建立在之先年ご病氣之節ご立願在之に付
1,725年	292年前	享保13年戊申6月1日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録7	都農八幡天神白山龍宮愛宕宮田祇園比木神明御城権現以上11社へ御晴厄に付ご代参お初穂銀3匁づつ
1,728年	289年前	享保16年辛亥6月23日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録8	比木祇園祭禮の節市料掛取り外は不掛取候 都農白鬚等も掛取の儀申達
1,730年	287年前	享保18年癸巳1月27日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	拾遺本藩実録8	麥作に虫付に付都農社比木社3ヶ寺並日光院圓實院に而御祈禱在之
1,751年	266年前	宝暦元年辛未11月9日	116代	桃園天皇	同上	9代	徳川 家重	第6代 秋月 種美		同上	拾遺本藩実録10	都農大明神鳥井額掛度願出御免尤も社司筑後倅上京吉田殿より被差師許候殿申
1,759年	258年前	宝暦9年11月3日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		同上	同上	11月3日の申酉大祭に地元は勿論、豊後佐伯地方からも大幣の奉納がある
1,766年	251年前	明和2年乙酉7月10日	117代	後桜町天皇	同上	10代	徳川 家治	第7代 秋月 種茂		同上	續本藩実録1	野別府虫付に付都農社に而御祈禱右料1貫文

1,768年	249年前	明和4年丁亥7月1日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		金丸筑後守通好 明和5年8月29日没	續本藩実録2	川北川南郷虫付に付都農社に而御祈禱在之錢1貫文
1,776年	241年前	安永5年丙申9月9日	同上	同上	同上	同上	同上	同上		金丸丹波守通重 安永5年1月4日没 71歳 後筑後と改める	續本藩実録4	近年猥に霧島代参大勢差師起に付ご停止尤も右代り都農社尾鈴社へ勝手次第可参被仰出
1,782年	235年前	天明2年壬寅6月4日	119代	光格天皇	同上	同上	同上	同上		金丸伊豆守通忠 寛政9年5月27日没 39歳	續本藩実録5	高鍋上江持田椎木高城日置三納代虫付高鍋村同上江より都農社へ祈禱の為参詣仕度願出大勢は無用一村1人づつ名代差立候様被仰出
1,783年	234年前	天明3年癸卯5月21日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録5	先年より田方仕付相済両代官始庄屋中都農社へ参詣候所近年中絶仕り候打続凶年故當年庄屋召連参詣仕度伺出先格之通致候様被仰付
1,783年	234年前	天明3年癸卯6月1日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録5	都農社比木神明白山天神愛宕御城権現宮田祇園龍宮高鍋大明神右諸社へ御入厄に付物頭御代参在之お初穂銀一匁づつ
1,783年	234年前	天明3年癸卯7月12日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録5	去る年已来凶年に当年大風雨洪水無之豊作の祈願家中一統郷中町浦津迫都農比木尾鈴社へ祈願候様長照寺金丸筑後へ被仰出
1,783年	234年前	天明3年癸卯8月11日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録5	大風雨後快晴無之に付都農社並比木神明尾鈴社へご代参物頭 中略 右所社へご祈晴何もお初穂一村づつ都農比木八幡諸社御神楽
1,784年	233年前	天明4年甲辰5月22日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録5	都農尾鈴両社へ五穀成就ご武運長久の御祈禱在之ご代参被差立
1,784年	233年前	天明4年甲辰6月1日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録5	殿様ご晴厄に付諸社へご代参在之
1,787年	230年前	天明7年丁未4月5日	同上	同上	同上	11代	徳川 家斉	同上	同上	同上	續本藩実録6	両御祈願所三ヶ寺其外都農社比木社に而御祈晴物頭中学校等へ存申出候様被仰付候所快晴に付御取止
1,788年	229年前	天明8年戊申6月15日	同上	同上	同上	同上	同上	第8代 秋月 種徳	同上	同上	續本藩実録6	御駕部屋上に在之松胸折病木に而も無之依之ご武運長久国家安全之御祈禱日光院圓實院へ被仰付お初穂1貫文づつご直参各社並城主大明神都農社神主へ同断お初尾銀2匁づつ何もお札差上
1,789年	228年前	寛政元年己酉閏6月22日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録7	都農社比木社鶴戸社立岩社等に而御祈雨
1,793年	224年前	寛政5年癸巳3月10日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録8	都農社比木社白鬚社尾鈴社御祈雨ご代参奉行中
1,798年	219年前	寛政10年戊午6月22日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	金丸主税 寛政9年7月家督を相	續本藩実録9	都農社比木社に而御祈雨
1,801年	216年前	享和元年	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上		修験僧大円、文化5年まで7年間都農に滞在し修験活動を行う
1,803年	214年前	享和3年癸亥6月4日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録10	御厄に付11社へご代参
1,803年	214年前	享和3年癸亥12月18日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録10	都農一ノ宮社人常次郎一代町役月只御免度々御鶉狩お供仕に付
1,815年	202年前	文化12年乙亥5月21日	同上	同上	江戸時代 後期	同上	同上	第9代 秋月 種任	同上	同上	續本藩実録12	於両御祈願所御祈雨明後日の内比木社並川原高ヶ崎に而御祈雨村々一村に付一人づつ代参候様都農一ノ宮社に而同断
1,816年	201年前	文化13年丙子8月1日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	金丸信濃道繁 享和3年生 文政11年3月11日没 26歳	續本藩実録13	一ノ宮比木鶴戸立岩以上錢一貫文づつ八幡 中略 以上諸社ご祈晴大風雨後連日雨に付
1,828年	189年前	文政11年戊子9月1日	120代	任孝天皇	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録16	一ノ宮社並比木社に而御祈晴奉行の内一人づつ差越
1,832年	185年前	天保3年壬辰2月22日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録17	都農大明神神輿に而濱出御祭禮仕度神主金丸組馬より願出御免
1,832年	185年前	天保3年壬辰6月2日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録17	野別府両名都農社中通比木社新納鶴戸社に而祈雨
1,832年	185年前	天保3年壬辰7月1日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録17	殿様御晴厄お祝 中略 都農社八幡天神高鍋大明神白山龍宮祇園比木宮田愛宕御城権現並神明諸社へご代参
1,832年	185年前	天保3年壬辰8月19日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録17	雨潤澤に付比木社八幡家老中七社は奉行中日光院圓實院へ物頭中立岩は番代湖水は勘定奉行ご代参神楽一社に一貫文
1,833年	184年前	天保4年癸巳12月14日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録17	一ノ宮並比木社に而御祈晴柴垣嘉治馬相詰
1,835年	182年前	天保6年乙未9月5日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	續本藩実録17	若殿様岩山駒追ご見物御出岡本主殿萱島克己柴垣嘉治馬田村雄右衛門お供 都農御飯屋へ御一宿 6日御帰之節一ノ宮並牧内不動甘付権現へご参詣
1,838年	179年前	天保9年戊戌5月25日	同上	同上	同上	12代	徳川 家慶	同上	同上	同上	續本藩実録18	一ノ宮比木神明社等に而御祈晴惣齋
1,841年	176年前	天保12年辛巳9月4日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	金丸丹波通賀 安永8年生 弘化4年12月7日没 68歳	續本藩実録19	岩山駒追ご見物御出都農へ御一宿お帰掛一ノ宮並牧内不動甘付社へご参詣
1,848年	169年前	嘉永元年10月	121代	孝明天皇	同上	同上	同上	同上	同上	同上	大泉寺文書	大泉寺文書による記録が始まる 書き始めは名田金毘羅神社遷宮の旨記載
1,856年	161年前	安政3年辰3月26日	同上	同上	同上	13代	徳川 家定	同上	同上	同上	一ノ宮御造営永日記	河野喜之助らの寄進により社殿改築 この時撰社末社も寄進される
1,859年	158年前	安政6年10月12日	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上		社殿改築による遷座祭を行う。幣殿、拝殿の屋根は小板葺。同日の棟札2枚が現存する。
1,862年	155年前	文久2年壬戌2月15日	同上	同上	同上	14代	徳川 家茂	第10代 秋月 種殷	同上	金丸筑前通敏 文政11年生 文久元年12月4日没 34歳	續々本藩実録7 永友司日記	都農大明神司金丸肥前病死嫡子和本郎14歳遺跡被下 都農神主 金丸和本郎方幼年に付 家老より司へ受持神主となる様にとのお達しがある。以前は高鍋八幡宮の神主であった
1,866年	151年前	慶応2年8月	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	受持神主 永友 司 受持神主 永友 司		幣殿、拝殿の屋根を銅板葺にする。
1,867年	150年前	慶応3年10月14日	同上	同上	同上	15代	徳川 慶喜	同上	同上	同上		徳川幕府大政奉還
1,868年	149年前	明治元年戊辰11月19日	122代	明治天皇	明治時代 初期				同上	同上	續々本藩実録14	一ノ宮 比木 白鬚 祇園 右是迄御代参之節若黨兩人草鞋取一人鎗箱合羽籠沓籠為持来候所追々お供連等も被減候御時節に付以来遠方ご代参の節若黨一人草鞋取一人物持箱両掛之内為持度且つ天気模様寄合羽籠為持差越候而も被苦間敷哉勿論鎗者草鞋取は為持候心得に御座候此殿兼而心得罷在度御慮奉候候 以上

1,868年	149年前	明治元年戊辰11月15日	同上	同上	同上			同上	續々本藩実録14	奏者中 右之通伺出夫々評議の上雨天の節も合羽籠相止め物持一人に而相勤候様其の他 書面通り相心得候様被仰付候に付其者被相違候様大目付に相違
1,869年	148年前	明治2年11月10日	同上	同上	同上			同上	藩尾録	八幡天神両社月並御代参御廃止其他九社都農一ノ宮甘付立磐恒例に大祭と例の 通御代参相勤候様九月月並御代参の儀は御家よりの儀 思召次第尾録白鬚等御 代参同断
1,869年	148年前	明治2年	同上	同上	同上				北町区略史	この頃、夏祭で担がれる太鼓台の記述が北町区略史に見える
1,870年	147年前	明治3年8月	同上	同上	同上			同上		河野喜之助、河野重平、緒方安平の3名の他17名が発起した西神苑が完成。
1,871年	146年前	明治4年5月14日	同上	同上	同上			同上		国幣小社に列格する
1,873年	144年前	明治6年3月	同上	同上	同上			初代 堀口 章介		国幣社になって初代宮司の堀口章介は、当時文部省修史局員を務める。 赴任せず辞職。
1,873年	144年前	明治6年4月	同上	同上	同上			2代 石神 喜平次		明治7年9月 寒川神社宮司に転任
1,874年		明治7年10月	同上	同上	同上			3代 井上 千春		
1,875年	142年前	明治8年3月	同上	同上	同上			4代 井牟田 泉		肥後(熊本県)生まれ。名は直治、泉と称す。田島村の祀官なり。神道講釈を以て世 に鳴る。即ち神道の衰微を憂い力を和漢の学に用い、九州諸藩の招に応じ特に宮 崎、鹿児島に入り大に神道を講明し、皇道の扶植に力め、国体の尊厳を説く。明治 25年4月没す。
1,875年	142年前	明治8年9月	同上	同上	同上			5代 坂田 莠		天保元年生まれ。高鍋藩士。藩校明倫堂に学んだのち、大坂で藤沢東暎、江戸で藤 森弘庵の門人となる。維新後は新政府につとめ、明治8年都農神社宮司となり、明治 14年には奈良県大神社の宮司となった。
1,877年	140年前	明治10年8月3日	同上	同上	同上			同上	永友司日記	西南の役に於いて都農が戦火となる事を恐れ、坂田莠宮司が宮崎に出張で留守の 為、権宮司永友宗鷹ほか3名の神主が御神体を辛櫃に奉遷し、平山の黒木弥太郎 の新居に避難した。その後、薩摩軍敗走の際、弾丸用に社殿の銅板を剥ぎ取った。
1,877年	140年前	明治10年12月3日	同上	同上	同上			同上		素茂鳴神社、手摩乳足摩乳神社摂社に指定される
1,878年	139年前	明治11年2月11日	同上	同上	同上			同上		稲荷神社、熊野神社、愛宕神社末社に指定される
1,878年	139年前	明治11年3月21日	同上	同上	同上			同上		政府から板葺の工事費が下付されたが、緒方安平、河野友次郎、河野重平の3名の 寄付と大阪の人々の寄金とで銅板葺とし、遷宮式を行った。
1,879年	138年前	明治12年12月	同上	同上	同上			6代 丸野 房雄		
1,880年	137年前	明治13年6月	同上	同上	同上			同上		久邇宮朝彦親王 御親筆を奉納
1,882年	135年前	明治15年3月	同上	同上	同上			7代 永友 宗鷹		永友司の子
1,886年	131年前	明治19年12月	同上	同上	同上			8代 秋月 種繁		種樹の長男
1,889年	128年前	明治22年5月	同上	同上	同上			9代 永友 宗年		宮崎神宮より転任 崇鷹の長男
1,909年	108年前	明治42年9月15日	同上	同上	同上			同上		大洪水の為、9月15日に夏祭を延期
1,912年	105年前	大正元年	123代	大正天皇	大正時代			同上		明治天皇崩御の為、夏祭中止
1,917年	100年前	大正6年4月	同上	同上	同上			同上		高鍋神楽伊勢神宮に神楽奉納
1,919年	98年前	大正8年12月4日5日	同上	同上	同上			同上		冬祭が現在の日に変更になるが理由が示されていない
1,920年	97年前	大正9年8月1日	同上	同上	同上			同上		都農町制施行
1,922年	95年前	大正11年7月21日	同上	同上	同上			同上		国幣社列格50周年と町制施行を記念して、お神輿が新調される
1,926年	91年前	大正15年10月14日	同上	同上	同上			同上		瀧神社末社に指定される
1,917年	100年前	昭和2年3月	124代	昭和天皇	昭和時代 初期			同上		瀧神社社殿 改築寄進 崇敬者
1,917年	100年前	昭和2年8月	同上	同上	同上			10代 永友 宗清		宗年の四男 昭和17年2月鶴戸神宮宮司に転任
1,923年	94年前	昭和8年8月	同上	同上	同上			同上		昭和11年まで夏祭は3日間行われる
1,935年	82年前	昭和9年10月8日	同上	同上	同上			同上		秩父宮雍仁親王殿下 勢津子妃殿下 御親拝 金一封御下賜 杉御植樹
1,936年	81年前	昭和10年11月15日	同上	同上	同上			同上		勅使 久松侍従ご参拝される
1,940年	77年前	昭和14年6月22日	同上	同上	同上			同上		朝香宮鳩彦王殿下 御親拝
1,941年	76年前	昭和15年	同上	同上	同上			同上		皇紀2600年記念事業として境内拡張工事が成され、現在の境内の広さとなる
1,943年	74年前	昭和17年3月	同上	同上	同上			11代 河野 八百吉		昭和20年 西寒多神社に転任 都農神社で授与されている掛軸の絵はこの宮司の 描いたものである。
1,944年	73年前	昭和18年8月	同上	同上	同上			同上		昭和20年まで夏祭は1日間と黒木浩日記にある
1,944年	73年前	昭和18年11月27日	同上	同上	同上			同上		賀陽宮恒憲王殿下 敏子妃殿下 御親拝
1,946年	71年前	昭和20年8月1日	同上	同上	同上			同上		終戦直前の為、夏祭は午前1時に発興し、午前6時に還幸した。菊池兵団の兵士が 奉仕した
1,946年	71年前	昭和20年12月	同上	同上	同上			12代 佐藤 敏夫		高知県祭務官より転任 国幣社最後の宮司となる
1,946年	71年前	昭和21年	同上	同上	同上			同上		終戦後 GHQの神道指令により神社本庁の所属し別表神社となる
1,946年	71年前	昭和21年9月1日2日	同上	同上	同上			同上		8月にコレラが発生した為、夏祭を9月1日2日に延期
1,948年	69年前	昭和23年3月	同上	同上	同上			13代 永友 宗清		鶴戸神宮宮司より転任
1,948年	69年前	昭和23年	同上	同上	同上			同上		翌年まで夏祭を3日間行う
1,948年	69年前	昭和23年9月21日	同上	同上	同上			同上		例祭を12月5日に変更する旨を知事宛てに届出
1,955年	62年前	昭和30年6月	同上	同上	同上			14代 井上 国雄		後に宮崎神宮宮司に転任
1,954年	63年前	昭和30年6月23日	同上	同上	同上			同上		高松宮宣仁親王殿下 御親拝 杉御植樹
1,957年	60年前	昭和33年	同上	同上	同上			同上		瀧神社 社殿改築寄進 崇敬者
1,959年	58年前	昭和35年7月	同上	同上	同上			15代 長友 安美		青島神社宮司 後に鶴戸神宮宮司に転任
1,962年	55年前	昭和38年8月5日	同上	同上	同上			同上		常陸宮正仁親王殿下 御親拝 杉御植樹
1,966年	51年前	昭和42年1月	同上	同上	同上			16代 杉田 清		宮崎八幡宮宮司
1,968年	49年前	昭和44年4月1日	同上	同上	同上			同上		高鍋神楽が県指定無形文化財となる
1,969年	48年前	昭和45年12月5日	同上	同上	同上			同上		西神苑の補修工事竣工
1,972年	45年前	昭和48年	同上	同上	同上			同上		昭和50年まで、夏祭は海上渡御があった
1,980年	37年前	昭和55年	同上	同上	同上			同上		御神輿修理を行っているが、記録なし
1,988年	29年前	昭和63年9月	同上	同上	同上			壱岐 秋吉		都農神社禰宜、宮司代務者として就任
1,995年	22年前	平成7年3月	125代	今上陛下	平成			同上		瀧神社拝殿改築 鳥居寄進
1,995年	22年前	平成7年11月11日	同上	同上	同上			同上		天皇皇后両陛下 第15回全国豊かな海づくり大会行幸啓の砌 幣帛料御下賜
2,001年	16年前	平成13年9月	同上	同上	同上			17代 永友 元夫		都農神社権禰宜より宮司に就任 宗清の三男
2,002年	15年前	平成14年	同上	同上	同上			同上		平成の大造営奉賛会設立 奉賛活動開始する
2,002年	15年前	平成14年	同上	同上	同上			同上		境内の夫婦楠の1本が傷み、切断する 切断した大幹より現在のご神象を祀り始め る
2,004年	13年前	平成16年4月20日	同上	同上	同上			同上		天皇皇后両陛下 第55回全国植樹祭行幸啓の砌 幣帛料御下賜
2,007年	10年前	平成19年7月7日	同上	同上	同上			同上		正遷座祭 齋行 天皇陛下 幣帛料御下賜
2,007年	10年前	平成19年10月16日	同上	同上	同上			同上		御遷座奉祝祭 齋行 三笠宮寛仁親王殿下 御親拝
2,010年	7年前	平成22年2月1日	同上	同上	同上			18代 永友 謙二		鶴戸神宮権宮司より就任 宗清の孫

